

米づくり情報（NO. 5）

令和 7 年 8 月 13 日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
7	3	26.1	26.8	30.0	31.0	23.1	23.9	59.0	22.5	23.5	23.4
	4	26.7	27.7	30.9	31.9	23.5	24.3	42.4	80.0	28.3	26.4
	5	27.2	29.2	31.6	34.5	23.9	24.4	39.1	0.0	32.3	58.5
	6	27.6	29.3	32.1	35.8	24.2	23.6	44.3	0.0	41.4	71.5
8	1	27.8	29.1	32.5	33.5	24.2	25.4	34.7	5.5	34.9	39.5
	2	27.8	28.0	32.5	31.2	24.2	25.3	38.7	122.5	33.4	8.9

【7月3半旬～8月2半旬の気象概況】

- ・平均気温は平年より約 1.15℃高く、全体的に高温傾向。
- ・降水量は、7月5・6半旬は降水が無かった。乾燥した気象が続く少雨傾向。
- ・日照時間は、平年比 117%と多日照。

2 生育状況（8月12日）

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉 齢 (L)	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 東山代町脇野	6/1	本年値	出穂期8月10日				出穂は平年より5日遅い。
	5/30	平年値 平年比(差)	出穂期8月5日 +5日				
ひなたまる 大坪町古賀	6/24	本年値	82.0	444	13.5	38.8	※今年度調査開始のため、 平年値なし

（耕種概要）

- ・「夢しずく」「ひなたまる」の耕種概要は稲作情報 No.1～3を参照。

【情報田ウンカ類調査結果（25株あたり）】（調査日8月12日）

品種	地域	移植日	トビイロ ウンカ (成虫)	セジロ ウンカ (成虫)	ヒメトビ ウンカ (成虫)	ウンカ類 (幼虫)
夢しずく	脇野	6/1	0	0	0	1
ひなたまる	大坪	6/24	0	8	0	2

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（8月13日）

令和7年8月13日

佐賀県農業試験研究センター 本場

本年産水稻の生育状況（8月13日）

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	96.3	362	13.2	39.3	【気象】 8月6日～8月12日まで ◆平均気温…0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比 33%) ◆降水量…多い(平年比 461%) 【生育】 ◆草丈 「夢しずく」は高い、「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」はやや高い、「ひなたまる」は低い。 ◆茎数 「夢しずく」は少ない、「ヒノヒカリ」はやや少ない、「さがびより」はやや多い、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」はやや進んでいる、その他の品種は平年並み。 ◆葉色(SPAD 値) 「夢しずく」は濃い、「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや濃い、「ヒヨクモチ」は平年並み、「ひなたまる」は淡い。
		平 年	85.5	393	13.3	37.0	
		平年比(差)	113	92	(-0.1)	(+2.3)	
	ヒノヒカリ	本 年	84.7	459	13.8	38.8	
		平 年	82.4	483	13.4	37.1	
	平年比(差)	103	95	(+0.4)	(+1.7)		
ひなたまる	本 年	79.3	415	14.2	37.2		
	前 年	88.0	379	14.1	43.9		
	前年比(差)	90	109	(+0.1)	(-6.7)		
6月20日	さがびより	本 年	80.3	502	13.8	37.0	
		平 年	78.2	479	13.6	35.7	
		平年比(差)	103	105	(+0.2)	(+1.3)	
	ヒヨクモチ	本 年	75.0	769	13.9	35.8	
		平 年	71.8	624	13.8	35.9	
		平年比(差)	104	123	(+0.1)	(-0.1)	
留意点	○「さがびより」は穂肥の施用時期となっており、「ヒヨクモチ」もまもなく迎える。穂肥診断に基づき施用を行う。 ○「夢しずく」は走り穂がみられ、間もなく出穂期を迎える。穂揃い期以降は間断灌水を行い、土壌を固めるとともに根の活性化を図る。 ○「ひなたまる」、「さがびより」は穂ばらみ期～穂揃い期までは浅水管理を行い、「ヒヨクモチ」は中干しを終わらせ間断灌水に切り替える。 ○「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は紋枯病を確認した。農業技術防除センターの発生予察情報及び圃場を確認し、適期防除に努める。						

【農試作況圃場における幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成期(1mm)		出穂期	
	本年(平年差)	平年	本年(平年差)	平年
夢しずく	7/26(-2)	7/28	未	8/17
ヒノヒカリ	8/4(±0)	8/4	未	8/27
ひなたまる	8/4(+2)	8/2	未	8/25
さがびより	8/8(-1)	8/9	未	9/1
ヒヨクモチ	8/12(-2)	8/14	未	9/5

※8/12 時点幼穂長 「さがびより」 5.4mm程度、「ヒヨクモチ」 1.2mm程度

4 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・5月上中旬移植の夢しずくは、現在、乳熟期～糊熟期を迎えている。
- ・薬剤によるカメムシの防除を徹底する。
- ・また、早期落水による米の品質低下を防ぐため、収穫の7日前までは間断灌水を行い、必ず圃場に水を通すようにする。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・穂ばらみ期～出穂期を迎えている。
- ・穂ばらみ期から穂揃い期にかけては、イネの用水要求度が最も高い時期であるため、水が切れることがないように湛水管理を徹底する。
- ・この時期は強風による蒸散の影響を最も受けやすいため、台風の接近等が予想された場合には可能な限り深水とし、強風による葉先の裂傷や籾擦れなどの被害を緩和するよう努める。

3) 普通期水稻「ひなたまる」

- ・幼穂形成期を迎えている。中干し作業は終了し、間断灌水へ移行する。
- ・紋枯病が多発する圃場や、多肥・過繁茂の圃場は発消長によっては被害が大きくなる可能性があるため、基幹防除と発生状況に応じた臨機防除を徹底する。
- ・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《ひなたまる 穂肥診断基準》

幼穂長1mm時の草丈(cm)	施 用 時 期		穂肥施用量 (kg/10a)	
	出穂前日数の目安	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
80cm未満	20～21日前	2～3mm	3.0	18 kg
80～85cm	18日前	4～5mm	2.0～1.0	6～12kg
85cm以上	原則として施用しない			

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②①の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

※ひなたまるは葉色が濃いため、草丈が 80cm 未満であれば、群落葉色が「4.0 以上」（葉緑素計 41 以上）であっても基準量を施用する。

4) 共通

病害虫発生予察情報予報第4号（8月の予報）

佐賀県農業技術防除センター

6月1日～8月31日の3か月間は農業危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1}	8月の予想発生量 ^{注2} 平年比	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稻 (早期)	紋枯病	並	斑点米カメムシ類
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻 (山間早植え)	穂いもち	並	
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	やや多	メハカメシ オハカメシ
水稻 (普通期)	穂いもち	並	
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
	1. 斑点米カメムシ類 水稻の出穂10日前までに畦畔を含めて除草を行うとともに、乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその7～10日後に薬剤防除を行う。 2. イネカメムシ 他の斑点米カメムシ類と異なり、水稻の出穂始めに穂を吸汁して不稔を生じさせることから、出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う（令和7年7月14日付け病害虫対策資料第8号参照）。 3. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂20～10日前を目安とする）に防除を徹底する。		
水稻全般	1. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稻の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通図1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。		

（主な病害虫の防除適期）

病害虫名	稲のステージ								
	出穂前後日数	-15	-10	-5	0	+5	+10	+15	+20
紋枯病	並発生の場合	←→							
	多発生の場合	←→		←→					
穂いもち	並発生の場合				←→				
	多発生の場合				←→		←→		
カメムシ類	並発生の場合							←→	
	多発生の場合							←→	

図3 紋枯病、穂いもち、カメムシ類の防除適期

(斑点米カメムシ)

- ・県内全域で発生が見られ、斑点米の発生による等級低下が懸念される。
- ・8月6日に農業技術防除センターより注意報が出されており。警戒が必要。
- ・圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、除草作業を出穂 10 日前までに行う。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の 7～10 日後）の 2 回薬剤防除を行う。

佐 農 技 防 第 412 号
令和 7 年(2025 年)8 月 6 日

病害虫発生予察注意報第 1 号

佐賀県

作物名：早植え水稻及び普通期水稻
病害虫名：斑点米カメムシ類



ホソハリカメムシ成虫

1. 注意報の内容

発生地域：早植え水稻及び普通期水稻栽培地域
発生量：平年より多い

2. 注意報発令の根拠

1) イネ科雑草地での発生状況

7 月 17 日～24 日に行ったイネ科雑草におけるすくい取り調査(18 地点)では、ホソハリカメムシの発生が 4.1 頭(平年 2.1 頭)と平年より多い(表 1)。発生種は、斑点米産出能力の高い大型カメムシであるホソハリカメムシ、クモヘリカメムシのほか、アカシカシカメが主体である。

2) これまでの気象

本年の九州北部地方の梅雨明けは 6 月 27 日と平年(7 月 19 日頃)より 22 日早く、また佐賀市の 7 月の平均気温は 30.1℃と平年(27.2℃)より高く、降水量は 43.0mm と平年(366.8 mm)より少なかったことから、本虫の発生に好適な条件であった。

3) 今後の気象

九州北部地方の 1 か月予報(福岡管区気象台 7 月 31 日発表)では、向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想されており、本虫の発生・加害に好適な条件が続く見込みである。

3. 防除上注意すべき事項

- 1) 圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源であり、出穂直前以降の除草による水田内への誘い込みに伴う被害を防ぐために、除草作業は出穂 10 日前までに行う。
- 2) 薬剤防除は乳熟期(穂揃い期の約 10 日後)を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期(穂揃い期の 7～10 日後)の 2 回薬剤防除を行う(図 1)。
- 3) イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類と異なり、水稻の出穂始めから籾を吸汁して不稔及び基部斑点米を生じさせる。そのため、出穂前にイネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。
- 4) 防除対策の詳細は「佐賀県総合防除計画(佐賀県病害虫防除のてびき)」を参照する。

表1 斑点米カメムシ類のイネ科雑草地すくい調査における発生状況（7月中下旬定期調査）

種類別	20回すくい取り虫数（頭）							R7	平年比
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	平年		
ホリハカメシ	0.8	3.0	2.3	1.8	1.4	4.6	2.1	4.1	多
クモハカメシ	4.5	10.2	2.7	2.4	4.5	12.7	6.0	2.3	やや少
アカシカメシ	3.4	34.1	46.4	15.5	20.3	19.1	21.8	22.8	並
シラホカメシ	0.7	0.1	0.0	1.5	0.1	0.5	0.8	0.6	並
ミナミアカメシ	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	多
計	9.4	47.5	51.4	21.2	26.2	36.8	30.7	30.0	並

注）平年は過去10年間（H27～R6）の平均値を示す。

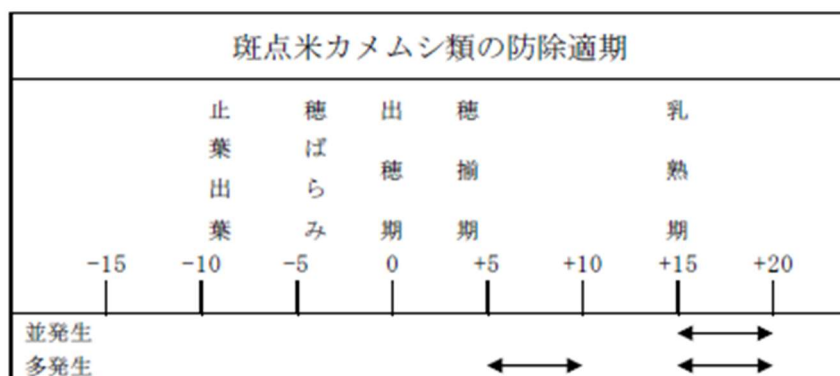


図1 斑点米カメムシ類の防除適期

（紋枯病）

- ・8月の気象予報では、気温が高く、多発生条件となっている。
- ・近年、多発傾向にあるため、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

(イネカメムシ)

- 管内でも発生が確認されている。
- イネカメムシは、他の斑点米カメムシ類と異なり、水稻の出穂始めから籾を吸汁して不稔及び基部斑点米を生じさせる。そのため、出穂前にイネカメムシの発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う。

病虫害対策資料第8号

佐農技防第353号

令和7年7月14日

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イネカメムシの県内における発生状況について

イネカメムシは、近年全国的に被害が拡大している斑点米カメムシ類の一種で、昨年本県において広く分布していることを確認しています（写真1）。本種は、水稻の出穂始めに籾を吸汁して不稔にし、大きな減収被害を生じさせるなど、他の斑点米カメムシ類とは異なる特徴があり、適期の本田防除が重要です。本年7月上旬の早期水稻の調査において、本種の発生を確認したことから、県内での被害の発生が懸念されます。

ついては、本種による被害の発生するおそれが比較的高いと考えられる山間、山麓部地域においては、本種の発生に留意するとともに、下記を参考に防除対策を徹底するように、生産者への指導をお願いします。

記

1. イネカメムシの発生状況

令和7年7月10日に実施した県内3地点の早期水稻18圃場での捕虫網によるすくい取り調査では、イネカメムシ成虫が1圃場で認められた（表1）。また、昨年8月上旬の調査では同3地点全てで本種の発生を認めている。

2. イネカメムシによる被害の特徴

本種は、出穂直後から加害することで不稔籾を生じさせ、被害が甚だしいと大きな減収を引き起こす。また、穂揃期以降は、基部斑点米を生じさせ、等級格下げの原因となる。

3. 防除対策

- 1) 圃場内をよく観察し、本種の早期発見に努める。特に、周辺より出穂が極端に早い、又は遅い圃場では、本種の飛来が集中するため、発生状況を注意深く観察する。
- 2) 出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の薬剤散布を実施する。
- 3) 出穂後に本種の発生を認めた圃場では、発生状況に応じて通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除を行う。|

写真1 イネカメムシ成虫【A】及び幼虫【B】、基部斑点米【C】
成虫の体長は13mm前後

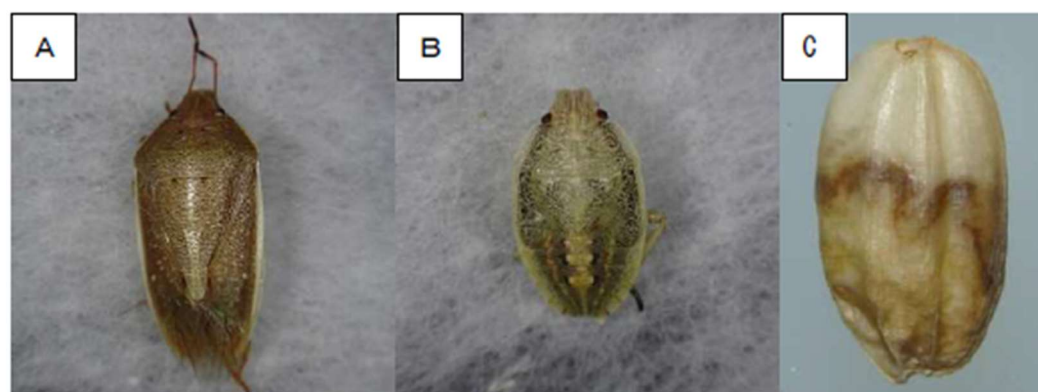


表1 斑点米カメムシ類の水田におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数（調査日：令和7年7月10日）

調査 地点	品種	生育 ステージ	イネカメムシ		クモヘリカメムシ		ホソハラカメムシ		シラホシカメムシ類		アカシジカメムシ		アカヒゲホソミドリ カメムシ		ミナミオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	
A-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0
B-1	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-2	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
B-3	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-4	コシヒカリ	出穂前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-5	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
B-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B-7	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C-2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-4	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C-5	コシヒカリ	出穂期	1	0	1	0	0	0	1	0	5	0	0	0	2
C-6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

水稻の生育ステージ：出穂前～出穂期

(いもち病)

- ・8月5日に入り、感染準好適条件が発生している。常発地帯では引き続き注意して圃場を観察する。
- ・葉いもちの発生が見られる圃場では、穂ばらみ期の防除を徹底するとともに、発生が多いと予想される場合には穂揃期にも防除を行う。
- ・8月7日までのBLASTAM 情報（気象条件のみによって葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では8月5日に葉いもちの感染準好適条件が観測されている（好適条件が観測された1週間後に初発生や病斑数の急激な増加が予想される）。
- ・進展型病斑が確認された場合は、速やかにオリブライト 250G 等で適切に防除を実施する。（ただし、オリブライト 250G の使用時期は出穂 10 日前まで）
- ・窒素過多は発生を助長するので、病斑が見られる圃場では穂肥施用量を減らすなど適切な肥培管理を行なう。

BLASTAM情報第6号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2025年8月7日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	10日	—	3	—	2	—	—	—	3	3	—
	11日	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—
	12日	3	—	—	—	—	—	3	—	—	3
	13日	—	3	—	—	—	3	—	3	3	—
	14日	—	—	—	—	—	—	3	3	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—
	19日	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	2	3	—	3	—	—	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	31日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
—：好適条件の出現なし
？：判定不能

(ウンカ類)

- ・トビイロウンカは6月16日～23日、8月4日に飛来が確認されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

海外飛来性害虫情報第11号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和7年8月7日更新)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ							
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県		佐賀県		長崎県		長崎県	
		佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 ネット トラップ	嬉野市 ライト トラップ	諫早市 ライト トラップ	諫早市 ネット トラップ	佐賀市 フェロモン トラップA	佐賀市 フェロモン トラップB	神埼市 粘着トラップ (20W蛍光灯)	伊万里市 フェロモン トラップ	白石町 フェロモン トラップ	武雄市 粘着トラップ (20W蛍光灯)	諫早市 フェロモン トラップ	長崎県
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	1	0		0			0	0	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	9日	0	0	0	0	0	0	1	0	0						0	
	10日	0	0	0	0	0	2	4	0			0			0	1	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	12日	0	0	0	0	0	1	1	0							0	
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	14日	0	0	0	0	1	0	1	0			0			0	3	
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0							0	
	16日	0	2	0	0	3	9	0	0	0					1	7	
	17日	0	0	0	0	0	4	0	0			0	0			1	
	18日	0	0	0	0	3	4	0	4							0	
	19日	0	0	0	0	0	2	0	0			1	0			6	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0						1	0	
	21日	0	0	0	0	1	1	0	0			1			0	0	
	22日	0	1	0	0	0	26	0	1				0			0	
	23日	0	2	0	0	2	126	2	0	0					0	0	
	24日	0	0	0	0	2	139	0	0			0			0	2	
	25日	0	0	0	0	2	12	0	0							1	
	26日	0	0	0	0	1	8	0	0							0	
	27日	0	0	0	0	0	7	0	0				2		1	1	
	28日	0	0	0	0	1	0	1				0			1	0	
	29日	0		0	0	0	0	0	0		0					0	
	30日	0		0	0	0		0	0	0						1	
7月	1日	0	0	0	0	0	2	1	0			0	3		0	0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	1	0							0	
	3日	0	0	0	0	0	1	0	0		0					0	
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0		0				0	0	
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0	0	
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	8日	0	0	0	0	0	1	0	0		0				0	0	
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		1	0	
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	13日	0	0	0	0	1	0	0	0		0					0	
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0		0				0	0	
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	17日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		1	0	
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	21日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	22日	0	0	0	0	0	0	0	0		0				3	0	
	23日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	24日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0		0				4	0	
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	28日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	29日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			2	6	0	
	30日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
8月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0		0				1	0	
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0		0					0	
	4日	0	2	0	0	14	0	0	0		0					0	
	5日										0					0	
	6日										0					0	

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

6月29～30日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

トビイロウンカ防除適期

1回目 8/5～8/11

2回目 9/4～9/10

コブノメイガ防除適期

1回目 8/4～8/13

2回目 9/8～9/18



図 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第2版、2025年7月18日作成)



図 コブノメイガ各世代の発生予測 (第2版、2025年7月18日作成)

- 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し（ウンカは稲の株元に定着します）。発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	: 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	: 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	: 斜め後ろ

	トビイロウンカ	セジロウンカ	ヒメトビウンカ
成虫	 長翅雌 短翅雌		 雌 雄
幼虫	若齢 中齢～老齢		

令和7年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

